

チャレンジ工房News

第53号

平成27年8月発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

イラスト Aya・keiko

南海トラフ地震に備えて

近い将来、和歌山沖を震源とする東南海地震が「発生するであろう」と予測されています。

尼崎市内には震度6強～震度7程度の揺れと3mほどの津波が110分で到達すると考えられています。

当工房も開所当時より、「南海トラフ地震」に備えた所員・スタッフの防災意識を高める取り組みとして、実際研修中に「和歌山沖で地震が発生して110分後に、尼崎港に3mの津波がくること」を想定してセンタープールの3階以上に避難する所内避難訓練を行いました。また阪神大震災が発生した1月17日前後に毎年、市内6地区で行われる「1.17を忘れない」地域の避難訓練に積極的に参加してきました。

今、市内の消防局やNPO団体・障害者団体などが中心となり、地震災害時から障害者・高齢者を一人でも残さず救うためのラウンドテーブルや要支援者名簿の作成等が行われています。

しかし同然のことながら、「障害者だからといって消防署や地域の人たちが見つけて必ず助けてくれる」ということではなく、お互いの近所付き合いが疎遠になっている困難があります。「障害者や要支援者」が町内のどこにいるかをつかめているわけではなく、東北の震災時も「支援者が障害者がどこにいるかを特定することがなかなかできなくて、支援の手が遅れて大変だった」と昨年8月に来ていただいた東北のおふたりからお話を聞いています。

だからこそ私たち障害者も決して「人任せ」にするのではなく、地震津波や台風などの自然災害時に一緒に避難してもらうためにも、日頃より地域の防災訓練に積極的に参加したり、隣近所と挨拶を交わしていくことによって地域の方々に、「私たちもこの地域で普通に生活したり活動している」ということを知ってもらうことが必要不可欠ではないでしょうか。

そのことは、東北から来られたおふたりも、日頃より地域や隣近所の方々との結びつきを強くしていることで、消防や行政などの「すぐにはかけつけられない支援」を待つだけではなく、障害者自らが隣近所の人たちに「私はここにあります。助けて下さい。」と声をだして、一緒に避難してもらうことが大事だと強く話されていました。

研修中に地震がきたら・・・

揺れがおさまってから一度工房の駐車場に避難した後、所員・スタッフの点呼を行って、とりあえず自分たちでセンタープールの西正門まで避難する段取りを考えています。途中で避難中の方々が必ず力を貸していただけます。センタープールの西正門までは車いすや杖でゆっくり移動しても約20分ほどです。(2012年工房内避難訓練時に確認済)

西正門までたどり着いたら、センタープールへ避難してくる地域方も大勢おられると思うので、お願いして津波被害が届かないとされている3階まで担いで一緒に避難してもらうことを考えています。

夜間自宅にいるときや外出中に地震がきたら・・・

南海トラフ地震が起きた場合、津波被害はJR神戸線(最悪時には、阪急神戸線)までおよぶと言われています。

地震津波から身を守るためには、早めに市が指定している最寄りの避難所や「津波避難指定ビル」のステッカーが貼られた高いビルに避難するように心がけて下さい。

事前に市から配布されている「防災マップ」や市のホームページの避難所一覧をみて、あらかじめ避難場所や避難経路を確認しておいて下さい。緊急時の障害者支援の連絡相談の電話番号は090-4306-5522です。登録しておいてください。

避難所一覧 http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bosai_syobo/hinan/index.html



8月の日程

8/8(土)～8/16(日) 夏季休暇

※夏が一番暑い時期だとされている上記の期間、所員・スタッフともの心身のリフレッシュを図るためお休みを頂きます。

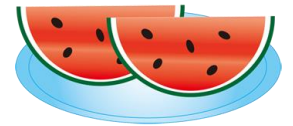
8/28(金) 防災訓練広瀬・曲参加
武庫川河川敷(午前中)

8/29(土) サフラン夏まつり

※当工房オリジナル
デザインの夏のポスト
カードとうちわを販売
させて頂く予定です。



工房の日々 ～暑中お見舞い申し上げます。～



最近、蒸し暑い日が続いていますが、みなさんいかがお過ごしですか・・・

所員・スタッフも毎日汗まみれになって、頑張ってる通所・通勤し、着いたらクーラーが効いた部屋で心身ともにしずめた後で、各自の研修や仕事に取り組んでいます。

当工房のイラストレータのAyaさんを中心に、ヘルパー事業所「サフラン」の夏祭りで販売するうちわや夏用のポストカードのデザインを考えたり、来年のカレンダーや年賀状の販売に向けてみんなで来年の干支「猿」のイラストをデザインしたりしています。

また、嬉しいことに先月末から2名の所員さんが新しく工房にお仲間入りをしてくれました。

お二人とも、とても意欲的な方で、Aさんは趣味で写真をされていて、「今は、写真屋に現像をお願いしてプリントアウトしてもらっているけど、いくいくはWord等を使って、写真の明るさや鮮度などを修正して家のプリンターで印刷できるようにしたい」と話されていました。



Bさんは、以前入所していた施設がスタッフの大学時代の実習先と同じだったこともあって、その話で話が弾んでBさん自身もだんだん工房に打ち解けてきています。「続けて勉強しているうちに、だんだんパソコンのことが分かってきて面白くなってきた」と話されていて、「パソコンの基礎を覚えたらMOS試験やCADの勉強にも挑戦していきたい」と言われていました。

まだまだ、暑い日が続きますが各自の目標をしっかりとって、この夏を乗り越えていきたいと思っています。

公益ポータルサイト「市民活動の広場あまがさき」の維持管理作業を手伝っています

パソコン工房が日ごろから協力をいただいている「NPO法人障害者情報ネットワーク尼崎」が、尼崎市との協働事業として「市民活動の広場あまがさき」サイト運営事業を2011年より展開しています。尼崎市よりの「市内の市民活動団体の情報を共有できるインターネットサイトをたちあげたい。」と提案があり、それを市民団体が受けて始まりました。



市民活動の広場あまがさき <http://amahiroba.info/>

福祉や子育てなどのカテゴリー別のイベント紹介ページや、ひと月ごとのイベントカレンダーがおかれていて、そのイベントをクリックすると、チラシ画像や掲載ホームページが表示されて、イベントの場所や開催日時が表示されるサイトです。市民団体の情報や市民団体のホームページ紹介のページもあり、市民活動の情報を共有しようという取り組みです。

パソコン工房チャレンジとしては、配布されている市民活動イベントのチラシを6地区15カ所の公民館・地区会館から月に1回集める作業及びその情報をサイトに入力するという二つの作業を協力しています。工賃収入となっています。

サイトへの月平均訪問者数が2011年発足時は530人でしたが、2014年度は目標の1000人を超えるようになり、本年度も同様です。

これは所員の皆さんのチラシ収集作業によるところが大きく、おかげで、イベント掲載数が2011年度は月に67件であったところが2014年度では平均月152件（1日平均5件）に増え、市民活動イベントの情報が充実してきたことによると思われます。

5月に開かれた外部有識者による「提案型協働事業評価会議」では「協働の役割、主体の役割分担について共有されており、課題を把握、認識しながら、確実に成果を上げている。これからも頑張ってもらいたい。」と励ましを受け、元気を出しています。

